

ジャパン・ツアー報告

Art 9 Peace Divine キャンペーン:目的

ボーンフリーアートスクールは日本国憲法九条の「武器を持たない、作らない、使わない」という非核三原則を謳った信念を抱き、初来日に希望と期待を膨らませて日本の地に2008年5月2日に降り立った。来日目的は、1. 児童労働の実態と日本社会とその関係性、2. 軍事費を減らし子どもへの教育費を増やすことの重要性と日本の憲法九条の役割、3. 子どもと若者による運動への参加およびアートによるエンパワーメント、という3つを柱とした。本キャンペーンは今年のボーンフリーアートスクールの活動の柱である。**Art 9 Peace Divine** とは、芸術と憲法九条が世界に平和をもたらす、という想いをこめている。

日程

2008年5月3日から5日に開催された世界九条会議 (*Global Article 9 Conference* ; www.article-9.org) にボーンフリーアートスクールはインドを代表し参加した。当会議には、およそ3万人、世界から31カ国が参加した。当日は予想以上の参加者数により会場からは人が溢れるほどであり、熱気に包まれた。ボーンフリーアートスクールからは、20年以上芸術家として児童労働廃絶と平和問題に取り組んで来たジョン・デバラジ、バーやレストランで働き路上では少年犯罪に手を染めていたものの現在では彫刻家として才能を発揮しているジャイラム・ペルマール (18歳)、プロのドラマーとして、また若き活動家として活躍するアルン・シバ・G (17歳)、ココナツを路上で売り父親の借金を返し、現在は学校に通いダンサーとしても成長するアナン・ダナコティ (15歳)、本校のプロジェクトコーディネーターである中山実生の総勢5名で参加した。世界会議では、「戦争経済と児童労働」と題したシンポジウムを行い200名以上の参加者や、原爆をテーマにしたダンス劇「白い花」(ジョン・デバラジ脚本・監督・音楽・映像)の発表を行った。会議の後、東京、千葉、神奈川、福島、京都、広島の6大都市各地にておよそ3週間弱に渡り講演およびパフォーマンスを行った。詳細は別紙。

公演内容

世界では2億4600万人の子どもたちが働き、そのうちの半分が、アジアの経済大国となりつつあるインドにて、1億3400万人の子どもたちが労働のくびきにつながれている。カルナタカ州では20万人の子どもたちが素手でマンガンと鉛を掘り、それらが日本に年間約2万8千トン流れている。それらは私たちが使うコンピューター、携帯電話、電子機器の一部の一部となり使うころには子どもたちの労働は見られない。一方で、世界は軍事ビジネスが益々盛んとなっており、世界の総軍事費は、2005年で1兆1180億ドルに達しそのうちの84%は先進国15カ国が、48%はアメリカが占めている。インドでは、軍事防衛費が一人当たり一年につき約3000円、教育費が約10円しか当てられていない。また、インドとパキスタンの国境を守る兵士の軍服1着は30万円かかり、子ども1000人分の制服を用意することができる。世界の軍事費の4日分を教育費に回せば世界で学校へ行っていない子どもたち全てが教育を受けることができると言われている。戦争でまず犠牲になるのは子どもであるが、一方で、先ほどのマンガンや鉛は人を殺す武器や戦闘機の一部に使われており、子どもたちは知らずに戦闘準備に加担させられていると言える。

このような状況の中、まず人びとの意識を変えること、児童労働を受け入れてしまっている文化を変えていくことが大切であるとボーンフリーアートスクールは信じている。音楽やダンス、彫刻、写真、演劇、映像などを通して児童労働の犠牲となった子どもたちをエンパワーし、彼らが社会へ訴えるアーティスト及びアクティヴィストになることを目指している。

会場から

どの会においても私たちは「原爆許すまじ」という日本の平和運動で代表された歌(1955年世界原水爆禁止大会第1回にて歌われ全国に広がった)で始め、多くの方の心に触れることができた。また、ナホーガー ナホーガー ヒロシマ ドウバラ イェ ヘ アージ ハマラ ナラ (二度と二度と 広島の悲劇を繰り返すな これは私たちの抵抗だ) !というインドの平和運動で歌われるヒンディー語の歌も会場の参加者と一緒

なって歌うことができた。話だけではなく、インドのフォークダンスやフォークソング、子どもたちによるライフストーリーのシェアなども行われた。

また、会場からよく質問された内容は、「働く子どもを自由にしたらその家庭がより一層貧しくなるのではないのか」という質問であった。それに対し、ジョン・デバラジは「アンドラプラデシュ州では、かつて1万の村にておよそ3万人の子どもたちが働いていたが、子どもが解放され学校へ行き、その代わり母親を含めたおとな5万人が職を得ることができた。結果、1家庭あたりにつき5倍の収入がもたらされるようになった。」と述べた。また、日本の印象を聞かれると、アルンは「日本の多くの友人にインドで会い、こちらで再会したので、むしろ自分の地に帰ってきた気持ちだ」、ジョンは「ヒロシマが私に命をくれた。いまこうして日本に来て平和問題と子どものことを語るのも、日本の憲法九条の概念に深く共鳴しているからだ。私の夢はインドの国家憲法に日本の九条を盛り込むことだ。発展している日本や日本人の親切さ、丁寧さ、人を敬う気持ちなどインドは学ぶべきことがたくさんある」と話した。アナンは「日本語を勉強して日本で勉強してみたい」、ジャイラムは「日本で平和や働く子どもをテーマにした彫刻をつくり、展示会を行いたい」とそれぞれ希望と夢を語っていた。

「白い花」ペインティング寄贈

私たちは広島の地に立った途端に非常に歴史的な重みとその地を訪れた喜びに包まれた。広島資料館に毎日通い学習し、被爆者で勢力的に講演活動されている岡田恵美子さん、碑めぐりを3時間以上もして下さった三登造成さんとの出会いも格別であった。

更に、ジョン・デバラジによるペインティング（大きさ3m X 2m）「白い花（*Shiroi Hana*）」が広島平和原爆資料館に公式に贈呈されることになった。平和文化センター理事長であるスティーブン・リーパー氏が心よく寄贈を受け入れて下さり、5月16日に贈呈式が行われた。また、デバラジの他の彫刻「Art 9」も寄贈を検討されている。ジョンは、アーティストとして自作が永久に資料館に残ることは名誉なことであると語っている。

今後の展望

ボーンフリーアートスクールでは、2008年8月6日から9日にかけて「ヒロシマ・ナガサキデー」を行う。そのために、6月から7月にかけて中高等学校で平和学習キャンペーンを行い、「白い花」の上演および原爆・核兵器・憲法九条を広めていく。6月12日「児童労働国際反対デー」にては、司法学者を集い「白い花」の公演を行う予定だ。そして8月のイベントでは、1. アーティストによる平和展（国内外からの作品を募集）、2. 子ども平和国会（*Children's Peace Parliament*）と憲法九条、3. 「白い花」ダンス公演、4. ビデオ会議（日本-インド）、5. 子どもたちによる展示会（彫刻と絵）を予定している。さらに、2008年10月2日バンガロールを発し、インド11都市を回る自転車平和ラリー「*Bangalore to Lahore, One Ore One Heart*（バンガロールからラホールへ。一つの心）」キャンペーンを行う。およそ3700キロメートルを予定している。

一方で、8月末に始まるピースボート第63回世界一周クルーズにて、日本～ベトナム～シンガポール～インドにて、「白い花」のダンス・演劇トレーニングをボーンフリーアートスクールが参加者に行い、世界各地で公演を予定している。また、インドでのイベントに向けてのファンドレイジングの一つに、東京にて8月6日に「白い花」や写真展が予定されている。広島では学生により8・6のビデオ会議への参加が予定されている。

今回各地で多くの方のサポートを受けた。食事、交通、宿泊、知識など全ての面でたくさんの数え切れない方々にサポートをして頂いた。この場を借りて心よりお礼申し上げます。大学関係者の方々、学生の方、またピースボートスタッフ、NGO関係者の方々、報道記者の方々、その他皆様のご支援ご声援なくしてこのツアーを成功させることは出来なかったと思います。本当に心より感謝申し上げます。そして、今後どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2008年5月22日

ボーンフリーアートスクール・プロジェクトコーディネーター
中山実生